

## 令和7年度学校評価報告書

令和8年(2026年)3月17日

釧路市教育委員会教育長 様

北海道釧路北陽高等学校長 鈴木 亮 介

次のとおり令和7年度の学校評価について報告します。

## 1 本年度の重点目標

単位制の趣旨を生かし多様な生徒の学習ニーズに対応するとともに、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、自ら課題を見つけその改善方策を考えることができる資質・能力の育成に努める。

## 2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
教育目標	今年度のスクールミッションを、「より良い世界及び地域社会を築くことに貢献できる国際的な視野をもった人材を社会に提供する」こととした。 細かな活動と、スクールミッションがうまく絡んでいない部分がある。	自己評価、改善への取組いずれも概ね適切である。
改善方策	学校教育目標及びスクールミッションが、各分掌、年次及び教科の活動計画に反映し切れていない部分があった。そのため、教育計画の立て方から見直していきたい。	
学習指導	授業改善に力を入れたい。教師が説明、生徒が課題を見つけ、自分で課題を解決する、探究的な授業を実践していく。学校経営方針の実現のため、評価の仕方、進め方を校内で統一し、進める。	一方的に教える授業よりも、子どもに考えさせる授業を入れてほしい。
改善方策	教科担任により、上記の評価や活動には差がある。今後は精力的に取り組んでいる教科担任を講師とした校内研修等の充実を図っていく。	
生徒指導	自ら判断し、より良い社会を築く一員となるための意識を、生徒指導を通して身に付けられるように指導に当たりたい。 70期生から制服が変わる。着用ルールなども生徒と考えていける1年にしたい。個々の生徒の理解を深め、組織的な生徒指導については十分にできた。	・自己評価、改善への取組いずれも概ね適切である。
改善方策	ルールを守らせることは大切である。一方で、なぜルールが必要であるのか、ルールがなかったらどうなるのかというケースも想定させた生徒指導方法も検討していきたい。	
進路指導	一つ一つの取組は良いものだが、全体の目的が見えにくい構造だったのが今年度の反省。	・進路に迷っている生徒へのフォローが重要。
改善方策	大学、専門学校、看護などそれぞれの進路を3年通して、わかりやすく系統立てる。	
健康・安全指導	今年度より、生徒指導部と保健安全部が1つとなった。生徒指導部長をはじめ、特別支援教育Co、養護教諭、関係教員が連携した対応が取れた。	・自己評価、改善への取組いずれも概ね適切である。
改善方策	担当者が変わっても、横の連携、外部との連携を大切にしていけるよう、効果的な研修を企画していきたい。	
学校運営	今年度は複数の校務組織で主担当の変更があった。組織化された分掌もあった一方、課題が浮き彫りになった分掌もあった。 台湾の景文高級中學と姉妹校協定を締結し、短期台湾研修等も予定している。国際強要教育を一層推進していく予定である。	概ね妥当な評価改善策が示されている。
改善方策	校務運営組織は、3年間を見通した計画の立案が必要である。各教職員の事情や特性などを考慮し、適切に配置できるよう十分に配慮していきたい。 教職員の長時間勤務については、適宜面談等を行い、部活動をはじめとした諸業務を効率的に行うことができるよう働きかけをしていく。	

公表方法

保護者・地域に向けて、自己評価及び学校関係者評価をWebページに掲載する。

## 3 添付資料 令和7年度自己評価および学校関係者評価書